

# 沖縄県における平成 21 年の毒蛇咬症

沖縄県衛生環境研究所

衛生科学班 松田聖子・寺田考紀・勝連盛輝

## I はじめに

沖縄県における平成 21 年（2009 年）の毒蛇咬症患者はハブ咬症 55 件、ヒメハブ咬症 7 件、サキシマハブ咬症 33 件、タイワンハブ咬症 1 件の計 96 件であった。これは昨年に引き続き 100 件を下回った。

今年はガラスヒバアやタイコブラ等のハブ属以外の毒蛇による咬症事故は確認されなかった（表-1, 2、図-1）。ハブ咬症による死亡者はなかった。また名護市で定着が確認されているタイワンハブによる咬症は確認できなかった。

最近 10 年間の傾向をみると、ハブ単独では 80 件前後から 60 件前後と約 25%減となっている。サキシマハブ咬症は 20~30 件前後推移し、ほとんど変わっていない。ヒメハブ咬症も 10 件前後を推移している。タイワンハブは 05, 06, 08 年に咬症被害が報告されている。四種の合計では 130 件台から 100 件ほどとハブの減少に対応して減少している。

## II 調査方法

沖縄県内で発生したハブ咬症による患者は治

表-1 最近10年間のハブ類咬症発生状況

年	ハブ		サキシマハブ		ヒメハブ	タイワンハブ	計	
	件数	死 受傷率	件数	死 受傷率	件数	件数	件数	死
00	82	0.066	36	0.76	17		135	
01	61	0.050	30	0.62	6		97	
02	54	0.046	32	*0.62	7		93	
03	63	0.051	23	*0.42	7		93	
04	43	0.035	22	*0.37	3		68	
05	67	0.054	26	*0.49	13	2	108	
06	62	0.049	30	*0.54	10	2	104	
07	61	0.048	27	*0.45	8		96	
08	65	0.051	21	*0.41	8	1	95	
09	55	0.043	33	*0.55	7	1	96	
計	613	0.049	280	0.52	86	6	985	

受傷率:人口1000人あたり受傷件数

\*八重山諸島における咬症件数/八重山諸島人口×1000

療を受けた病院より所管の保健所を通じて、毎月沖縄県薬務衛生課へ「ハブ咬症患者取扱報告」として報告される。さらに、診療にあたった病院が「ハブ咬症患者調査票」に基づき、受傷に関する詳細を患者から聞き取り、保健所を通じて衛生環境研究所に郵送する。ハブ咬症患者調査票には記入漏れがある場合が多く、それは直接咬症患者本人や病院に問い合わせて内容を補完した。しかし連絡の取れない患者もあり、充分とはいえない。

なお、被咬者が毒蛇の種類を確認していない場合には、八重山地域（石垣市、竹富町）では実害のある毒蛇はサキシマハブだけなので、サキシマハブとして集計した。一方沖縄諸島ではハブもしくはヒメハブの可能性が最も高く、また糸満ではサキシマハブ、名護市周辺や恩納村山田周辺ではタイワンハブの可能性も否定できない。だが、このようなヘビの種類が特定できない事例は、最も可能性の高いハブ咬症として集計した。

調査にあたって各抗毒素常備施設と各保健所の職員の方々に大変お世話になりました。厚くお礼を申し上げます。

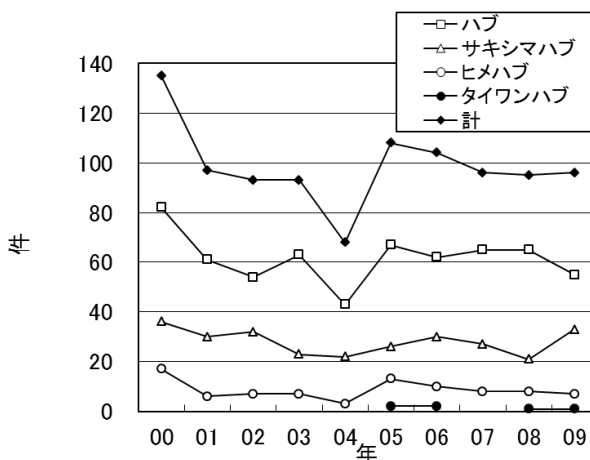


図-1 最近10年間のハブ類咬症発生状況

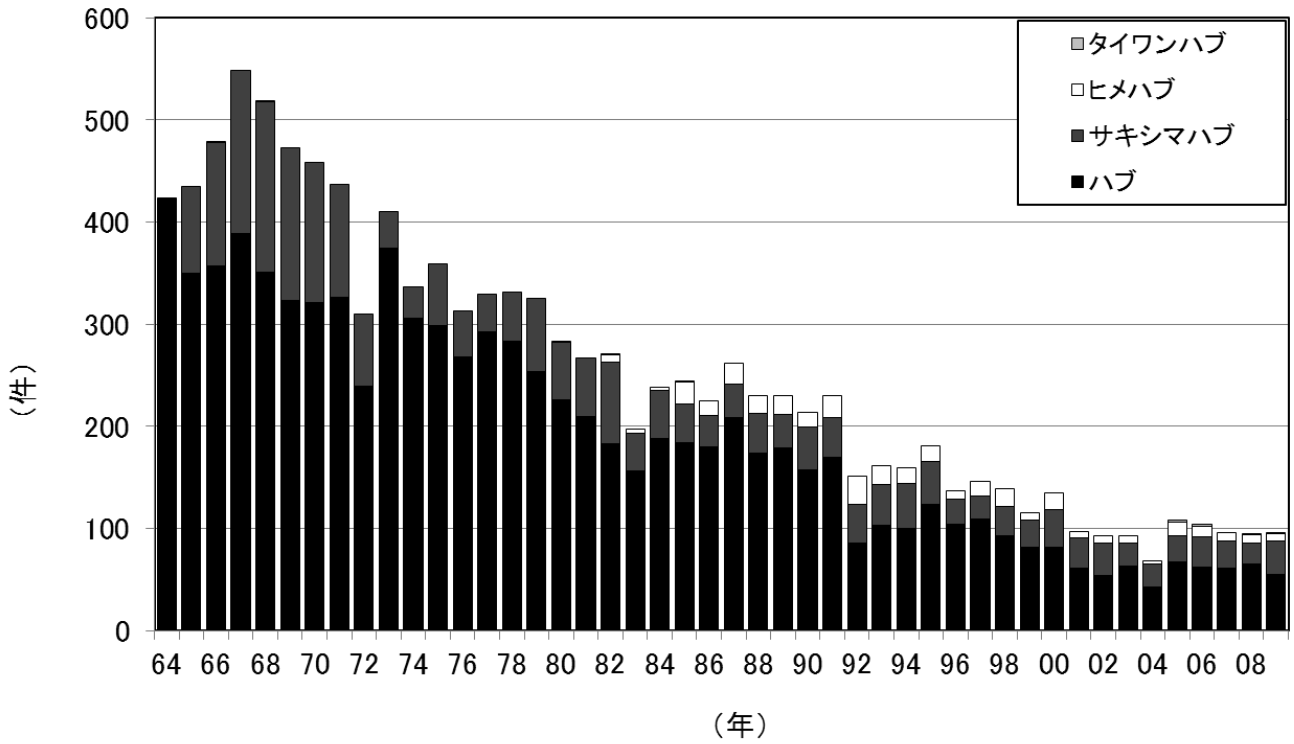


図-2 沖縄県のハブ類咬症の推移

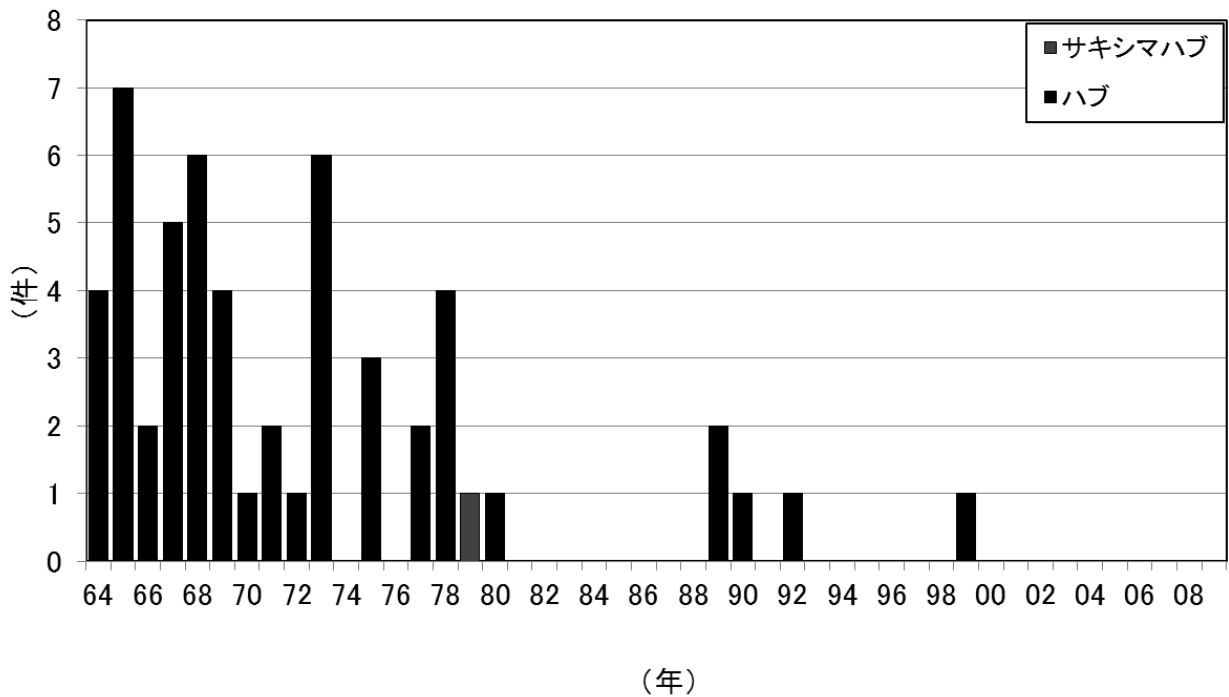


図-3 ハブ類咬症死亡件数の経年

表-2 沖縄県の毒蛇咬症の推移

種 年	ハブ 死亡 件数	サシマ 死亡 ハブ 件数	ヒメ ハブ	タイワン ハブ	ウミヘビ	コブラ	ガラス ヒバ		
64	424	4							
65	350	7	85						
66	357	2	121	1					
67	389	5	160						
68	351	6	167	1					
69	323	4	150						
70	321	1	137						
71	326	2	111						
72	239	1	71						
73	374	6	36						
74	306		31						
75	299	3	60						
76	268		45						
77	292	2	37						
78	283	4	48			1			
79	254		71	1					
80	226	1	56	1		1	1		
81	210		57						
82	183		80	7	1				
83	156		37	4					
84	188		47	3					
85	184		38	21	1				
86	180		31	14					
87	208		33	21					
88	174		39	17					
89	179	2	33	18		1			
90	157	1	42	15		2			
91	170		39	21					
92	86	1	37	28		1			
93	103		40	18					
94	100		44	15					
95	124		42	15					
96	104		25	8					
97	109		23	14					
98	93		28	18					
99	81	1	27	7					
00	82		36	17					
01	61		30	6					
02	54		32	7					
03	63		23	7					
04	43		22	3					
05	67		26	13	2				
06	62		30	10	2	2			
07	61		27	8					
08	65		21	8	1	1			
09	55		33	7	1				
計	8784	53	2408	1	353	8	7	2	1

表-3 最近10年間の市町村別毒ヘビ咬症件数

1. ハブ咬症											
年	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	計
国頭村	6	2		2	1		6	2	1	5	25
大宜味村	1	2	1	1	1		1		3	1	11
東村	2			1	1		1		1		6
今帰仁村	2		2	1		2	1	1	1	2	12
本部町	2	1	3	2		1	5		2		16
名護市	3	2	1	1	2	4		2	2	1	18
伊江村				1					2		3
伊平屋村									2		2
宜野座村			1		1	1	1	1	2	1	8
恩納村		1				1		1			3
金武町		2	2		1	1	1	1	2	2	12
石川市※	3	3		1	1						81
具志川市※	5		1	4	2	12	6	7	11	4	
与那城町※	3	4	1	3	4						
勝連町※	1	1		3	1						
読谷村	3	1	1	4	3	5	2	3		2	
嘉手納町		1						1			2
北谷町	1			1		1	2	1			6
沖縄市	5	5		2	1	4	3	3	1	6	30
北中城村	2	1	1	2		1			1		8
宜野湾市		2		1	1	2	2	2		1	11
中城村	1					1		1	4		7
西原町	2	2	1		1	1	2	3	2		14
浦添市	2	1	1			1	3	1			9
豊見城市	2	5		1		1		2			11
糸満市	6	10	6	8	7	6	2	2	7	8	62
東風平町★	2	2	4	4	4	1	9	8	1	7	56
具志頭村★	2	1	2	4	2	3					81
玉城村☆	6	4	5	3	2	3					
知念村☆	3	1	2		1	2	8	8	4	8	
佐敷町☆	4		1	2		2					
大里村☆	3		2	1	4	2					
南風原町	1		6	2		2	2	2	2	1	18
与那原町	1	1				1					3
渡嘉敷村	1	1				1					3
仲里村*	2	2	5	5	2	6	3	3	7	2	39
具志川村	2										1
渡名喜村	1										
那覇市	2	3	5	2		1	4	5	4	2	
不明				1					2		3
計	82	61	54	63	43	67	62	61	65	55	613

2. ヒメハブ咬症											
年	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	計
沖縄県	17	6	7	7	3	13	10	8	8	7	86

3. サキシマハブ咬症											
年	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	計
石垣市	23	22	23	13	16	22	20	19	16	21	195
竹富町	11	7	6	7	2	2	7	4	5	7	58
沖縄本島	2	1	3	3	4	2	3	4	0	5	27
計	36	30	32	23	22	26	30	27	21	33	280

4. タイワンハブ咬症											
年	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	計
名護市						2	2			1	5
今帰仁村									1		1
計						2	2		1	1	6

5. ウミヘビ咬症											
年	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	計
不明							2		1		3

★東風平町・具志頭村は2006年1月に合併して八重瀬町となったため、2006年以降のデータはまとめています

☆玉城村・知念村・佐敷町・大里村は2006年1月に合併して南城市となったため、2006年以降のデータはまとめています

※石川市・具志川市・与那城町・勝連町は2005年3月に合併してうるま市となったため、2005年以降のデータはまとめています

\*：仲里村と具志川村は2001年に合併して久米島町となったため、2001年以降のデータはまとめています

### III 調査結果

#### 1. ハブ咬症

平成21年のハブ咬症件数は昨年より10件減少した(表-1)。市町村別に見ると、糸満市・南城市の8件が最も多く、次いで八重瀬町の7件、沖縄市の6件、国頭村の5件、うるま市の4件、今帰仁村・金武町・読谷村・西原町・久米島町・那覇市の2件、大宜味村・名護市・宜野座村・宜野湾市・南風原町の1件でハブ咬症患者が発生しており、東村・本部町・伊江村・伊平屋村・恩納村・嘉手納町・北谷町・北中城村・中城村・浦添市・豊見城市・与那原町・渡嘉敷村・渡名喜村の12自治体でハブ咬症が0であった(表-4、図-4)。

市町村合併で単純な比較はできないが、最近10年間の累計では糸満市や南城市、うるま市を中心とする地域で多く咬症患者が発生している。

#### 2. ヒメハブ咬症

ヒメハブ咬症は金武町で2件、東村・今帰仁村・本部町・宜野座村・南城市で1件であった。ただし、上記のハブ咬症件数の中には咬んだへびの種類を確認できていない場合が過半数を占めている。その中にはヒメハブ咬症も含まれていると予想されるので、ヒメハブ咬症の実数はもう少し多く、その分ハブ咬症が少ないと考えられる。

なお、ヒメハブは毒牙が短く、毒量も少ないので、重症になることが少ない。ちなみに、これまでヒメハブ咬傷者の死亡記録はない。

#### 3. サキシマハブ咬症

サキシマハブ咬症は、糸満市5件、石垣市21件、竹富町7件と、前年より12件増加した。糸満市のハブ類咬症被害の件数にほとんど減少が見られないのは、サキシマハブの影響も考えられ、被害拡大が懸念される。

サキシマハブもハブより毒が弱く、治療に際して血清を使わない事が多い。平成21年に血清を使用した患者は3名だった。

#### 4. タイワンハブ咬症

タイワンハブによる咬症は名護市で1件だった。

聞き取り調査によるとタイワンハブの目撃例も多いことから、今後も注意が必要である。



表-5 2009年 市町村別ハブ類受傷件数と人口千人当り受傷率

順位	受傷市町村	ハブ	ヒメ	サシ	タイ	計	順位	受傷市町村	受傷件数	受傷率
		ハブ	ハブ	ハブ	ハブ					
1	石垣市			21		21	1	竹富町	7	1.7090
2	糸満市	8		5		13	2	国頭村	5	0.9544
3	南城市	8	1			9	3	東村	1	0.5618
4	八重瀬町	7				7	4	石垣市	21	0.4487
4	竹富町			7		7	5	宜野座村	2	0.3789
6	沖縄市	6				6	6	金武町	4	0.3680
7	国頭村	5				5	7	今帰仁村	3	0.3177
8	金武町	2	2			4	8	大宜味村	1	0.3095
8	うるま市	4				4	9	八重瀬町	7	0.2708
10	今帰仁村	2	1			3	10	久米島町	2	0.2322
11	名護市	1			1	2	11	糸満市	13	0.2286
11	宜野座村	1	1			2	12	南城市	9	0.2273
11	読谷村	2				2	13	本部町	1	0.0716
11	西原町	2				2	14	西原町	2	0.0579
11	久米島町	2				2	15	読谷村	2	0.0525
11	那覇市	2				2	16	沖縄市	6	0.0462
17	大宜味村	1				1	17	うるま市	4	0.0348
17	東村		1			1	18	名護市	2	0.0328
17	本部町		1			1	19	南風原町	1	0.0284
17	宜野湾市	1				1	20	宜野湾市	1	0.0108
17	南風原町	1				1	21	那覇市	2	0.0060
22	伊江村					0	22	伊江村	0	0
22	伊平屋村					0	23	伊平屋村	0	0
22	恩納村					0	24	恩納村	0	0
22	嘉手納町					0	25	嘉手納町	0	0
22	北谷町					0	26	北谷町	0	0
22	北中城村					0	26	北中城村	0	0
22	中城村					0	26	中城村	0	0
22	浦添市					0	26	浦添市	0	0
22	豊見城市					0	26	豊見城市	0	0
22	与那原町					0	26	与那原町	0	0
22	渡嘉敷村					0	26	渡嘉敷村	0	0
22	渡名喜村					0	26	渡名喜村	0	0

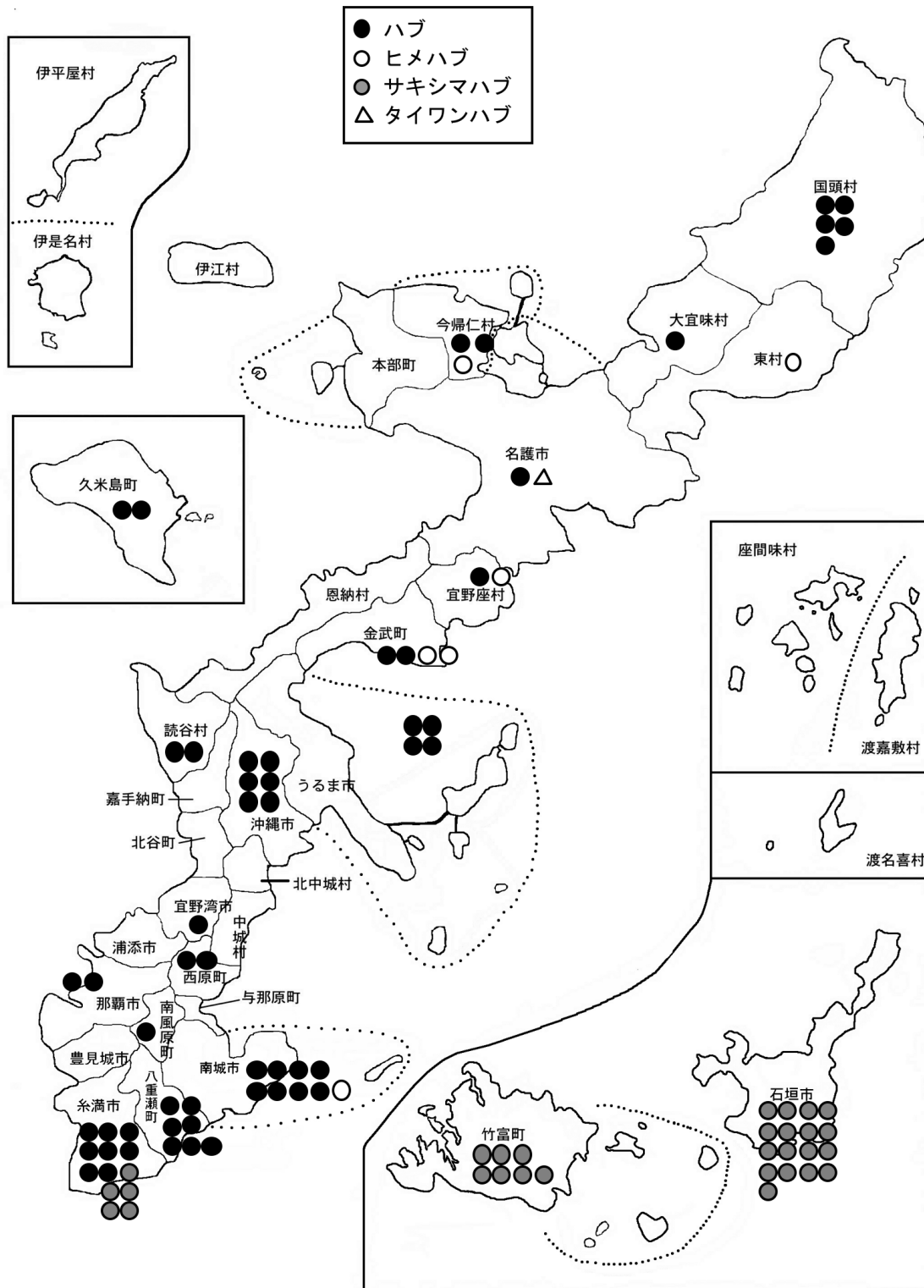


図-4 2009年 市町村別ハブ類咬症件数



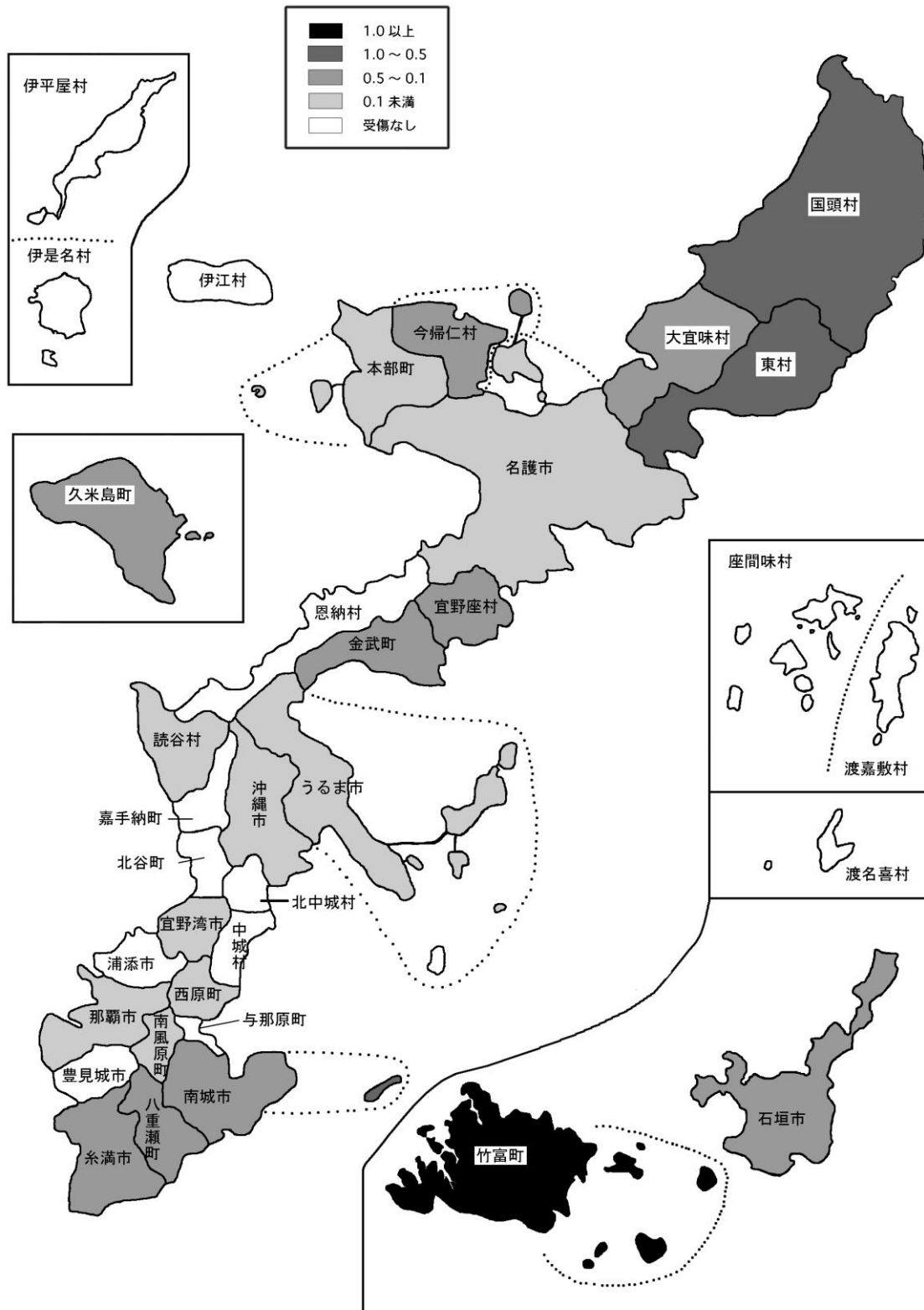


図-5 2009年 市町村別人口千人当たりハブ類受傷率

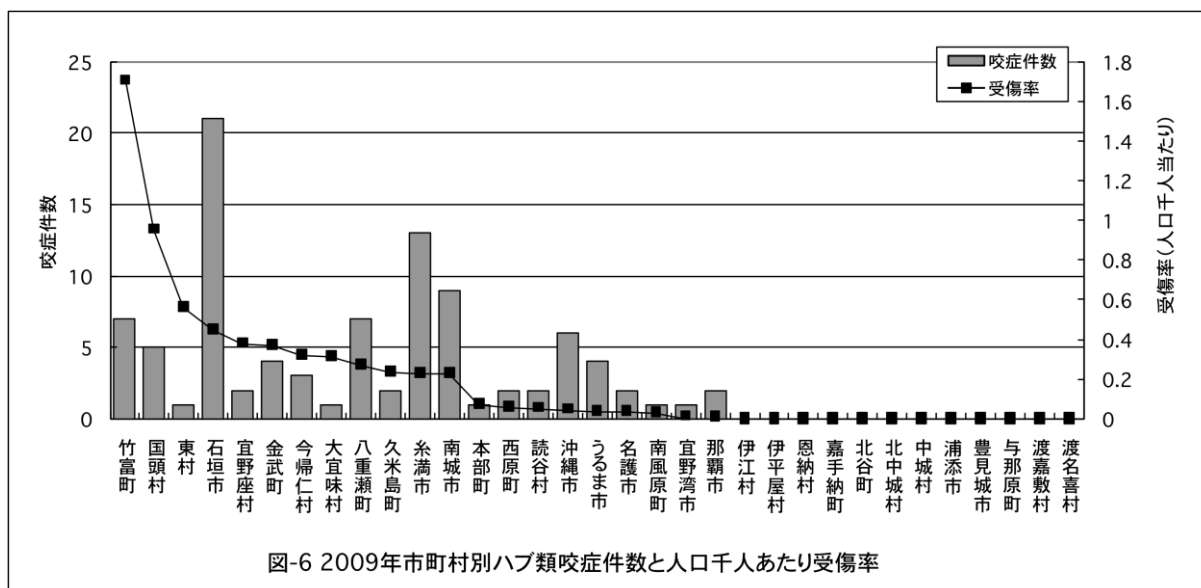


図-6 2009年市町村別ハブ類咬症件数と人口千人あたり受傷率

### 5. 人口 1000 人あたりの受傷率

ハブ・ヒメハブ・サキシマハブ・タイワンハブの 4 種の咬症患者の合計を市町村別に人口千人あたりの受傷率で見ると、竹富町が 1.71 と最も高い。次いで国頭村 0.95、東村 0.56、石垣市 0.45、宜野座村 0.38、金武町 0.37、今帰仁村 0.32 の順になり、人口千人あたり 0.50 以上の市町村が 3 町村あった (表-5、図-5, 6)。

なお竹富町は、例年ほぼ受傷率 1 近くあるいはそれ以上ある。

ハブ類咬症者のいなかった市町村を除くと、受傷率の最も低いのは那覇市の 0.006 である。これは人口約 17 万人に 1 人の割合になる。ついで宜野湾市 0.011、南風原町 0.028 と続く。これは市街化が進んだために、住宅面積の割合が多く、山野や耕作地などの緑地面積が少なく、また人口の割に咬症患者が少ないため受傷率が低くなったと考えられる。ハブ類の生息する全市町村の平均は 0.072 で 10 万人に約 7 件である。

### 6. 毒蛇の種類

沖縄県では、毒蛇による咬傷時に、咬まれた人が咬みつけたヘビを目撃するのは咬症者全体のほぼ半数にすぎない。それは、ハブ類咬症のほとんどが見通しの悪い草むらや畑の中、夜間の暗がりの中で起こり、しかも咬んだヘビの多くがすぐに逃げてしまうために、確認できないからである。

さらに、ヘビを目撃した場合でも多くの人が種類を判別できない。

咬症患者がヘビの種類を確認できない場合は、咬症後の痛みと傷の状態から毒蛇に咬まれたか否かを判断することになる。被害を及ぼす毒蛇が 1 種類のみ八重山地方ではサキシマハブと判断できる。

沖縄本島とその周辺離島でヘビに咬まれ、毒蛇と判断されかつ種類を確認できない場合には、ハブの可能性が最も高い。次いでヒメハブ、アカマタ、ガラスヒバアの可能性がある。

ガラスヒバアは毒蛇であるが、形態的に毒牙が口内の奥にあるために、咬まれても毒が注入されることは稀であると考えられる。またカエルを主な餌とするので水辺に生息し、ネズミを主な餌とし、生息域が人間の生活環境と交錯するハブとは異なり、人間との接触はかなり少ない。そのためこれまで、ガラスヒバアによる記録はない。

アカマタは生息域がハブ類と共通である。攻撃的で、人間を咬むこともあるが、咬まれて種の確認ができない場合でも、傷口が U 字型の多数の歯型からなることと、患部に腫れ、出血、強い痛み の症状を伴わないことから無毒蛇と確認できる。

一方、沖縄本島では自然分布しないサキシマハブ、タイワンハブ、タイコブラの 3 種の毒蛇が過去に捕獲されており、糸満ではサキシマハブ、名護市及び恩納村山田周辺ではタイワンハブが定

着している。特にここ数年、糸満市でサキシマハブの増加が確認されており、毎年数人の咬症患者が発生するようになった。台湾ハブも05年以降は07年以外毎年咬症患者が発生した。治療に関しては、ハブの近縁種である台湾ハブによる咬症はハブの抗毒素で治療できることが判明している。タイコブラは1993年頃に捕獲された以外は15年以上目撃及び捕獲がないことから、定着している可能性は少ない。

### 7. 月別咬症発生件数

ハブ咬症は例年秋に最も多く、次いで初夏に多い。また、冬期のサトウキビ収穫時にも若干増える。

平成21年は、ハブ咬症は7, 10, 11月が8件で最も多く、次いで4月5件、1, 3, 6, 12月4件、

2, 8月3件の順であった。ヒメハブ咬症は2, 3, 6, 7, 8, 9, 10月に各1件だった。サキシマハブ咬症は9月に6件と最も多く、次いで10, 12月に4件、4, 5, 6, 7, 11月に3件だった。(表-6、図-7)。

### 8. 保健所別咬症件数

ハブ属4種合計の保健所別届け出数は、南部福祉保健所の33件が最も多く、次いで八重山福祉保健所の28件、中部福祉保健所の16件、北部福祉保健所の15件、中央保健所の4件であった(表-7)。

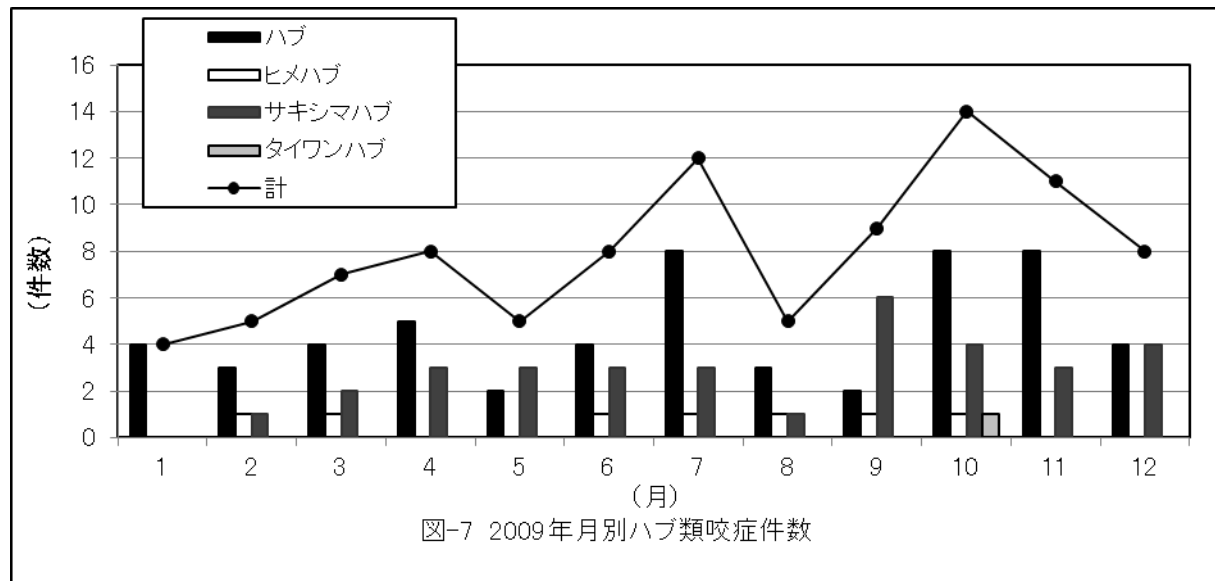


表-6 2009年月別ハブ類咬症件数

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
ハブ	4	3	4	5	2	4	8	3	2	8	8	4	55
ヒメハブ		1	1			1	1	1	1	1			7
サキシマハブ			1	2	3	3	3	1	6	4	3	4	33
台湾ハブ										1			1
計	4	5	7	8	5	8	12	5	9	14	11	8	96

表-7 2009年 届出保健所別月別ハブ類咬症件数

保健所	種名\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
北部	ハブ	2	1	1	2		1	1				1	1	10
	ヒメハブ			1			1			1	1			4
	タイワンハブ										1			1
	計	2	1	2	2		2	1		1	2	1	1	15
中部	ハブ		1		1	2	1	3	1		2	2	1	14
	ヒメハブ		1						1					2
	計		2		1	2	1	3	2		2	2	1	16
南部	ハブ	2	1	3	2		2	2	2	2	5	5	1	27
	ヒメハブ							1						1
	サキシマハブ				1	1	1					1	1	5
	計	2	2	2	2	3	2	2		1	3	1	2	33
中央	ハブ							2			1		1	4
八重山	サキシマハブ	1	2	2	2	2	3	1	6	4	2	3	28	

9. 場所別の咬症発生件数

ハブ咬症の起こる場所は、例年、最も多い畑が約 40%を占め、屋敷内と家屋内とを合わせて 4分の 1、残りが道路や山林、草地で発生している(図-8、表-8)。

平成 21 年は畑が 22 件 (40%) で、そのうち 32%にあたる 7 件がサトウキビ畑での咬症である。

一方屋内 4 件 (7%) と屋敷内 16 件 (29%) を合わせた屋敷全体で 20 件 (36%) となり、屋敷全体では畑での咬症件数に続いた。このように、ここ数年家屋内での被害が増加しており、ハブの侵入を防ぐ対策などの普及に努めることが重要である。

なお残りは道路 7 件 (13%)、山林・草地 5 件 (9%)、その他 2 件 (4%) となった。

ヒメハブ咬症は、屋敷内 4 件 (57%)、畑 2 件 (29%)、その他 1 件 (14%) であった。

サキシマハブ咬症は、屋敷内が 11 件 (33%) と最も多く、屋内の 1 件を合わせると 12 件となり、家屋内での被害増加が目立った。次いで畑が 10 件 (30%)、道路及び山林・草地各 5 件 (各 15%)、その他 1 件 (3%) の順だった。

タイワンハブ咬症は道路の 1 件であった。

4 種の合計では家屋内と屋敷内を合わせた屋敷全体が 36 件 (38%) で最も多く、次いで畑が

34 件 (35%)、それ以外の合計が 26 件 (27%)

であった。畑での咬症は前年より減少したが、屋敷全体での咬症が最も多くなっている。屋敷全体という人の生活圏における咬症の相対的な増加傾向が続いており、より一層の対策が必要である。

10. 時刻別咬症件数

ハブが夜行性であるにもかかわらず、ハブ咬症は日中に多い。これは、咬症者の 32%が畑で咬まれており、畑での咬症は農業従事者の労働時間である日中に起こることが多いためである(表-9, 10、図-8)。

草地と山林での咬症も人間の活動時間である日中に多い。

道路での咬症は逆に暗い夜間が多い。夜行性であるハブは、道路のようなオープンな場所に日中出現するのはきわめて稀で、ほとんどは、夜間の暗い路上を歩行中、ハブに気付かずに咬まれたものである。

屋敷内および家屋内での咬症は昼夜の差はみられない。これは、夜間に侵入してきたハブに侵入直後に咬まれる場合と、侵入後、物陰に隠れていたハブに日中もしくは夜間に咬まれるためと推測される。

表-8 2009年 場所別咬症件数

場所	ハブ	ヒメ	サシ	タイワン	計
	ハブ	ハブ	ハブ	ハブ	
屋内	4		1		5
屋敷	16	4	11		31
畑	22	2	10		34
道路	7		5	1	13
山林草地	5		5		10
その他屋敷外	1	1	1		3
計	55	7	33	1	96

表-9 2009年 動機別咬症件数

動機	ハブ	ヒメ	サシ	タイワン	計
	ハブ	ハブ	ハブ	ハブ	
就寝中	2				2
用便中	3				3
室内の他の動作	1				1
通行中	10	2	6		18
キビ刈り中	5		1		6
農作業中	13	1	7	1	22
草刈り中	11	2	12		25
ハブ扱い中	2		1		3
屋外の他の動作	8	1	6		15
不明		1			1
計	55	7	33	1	96

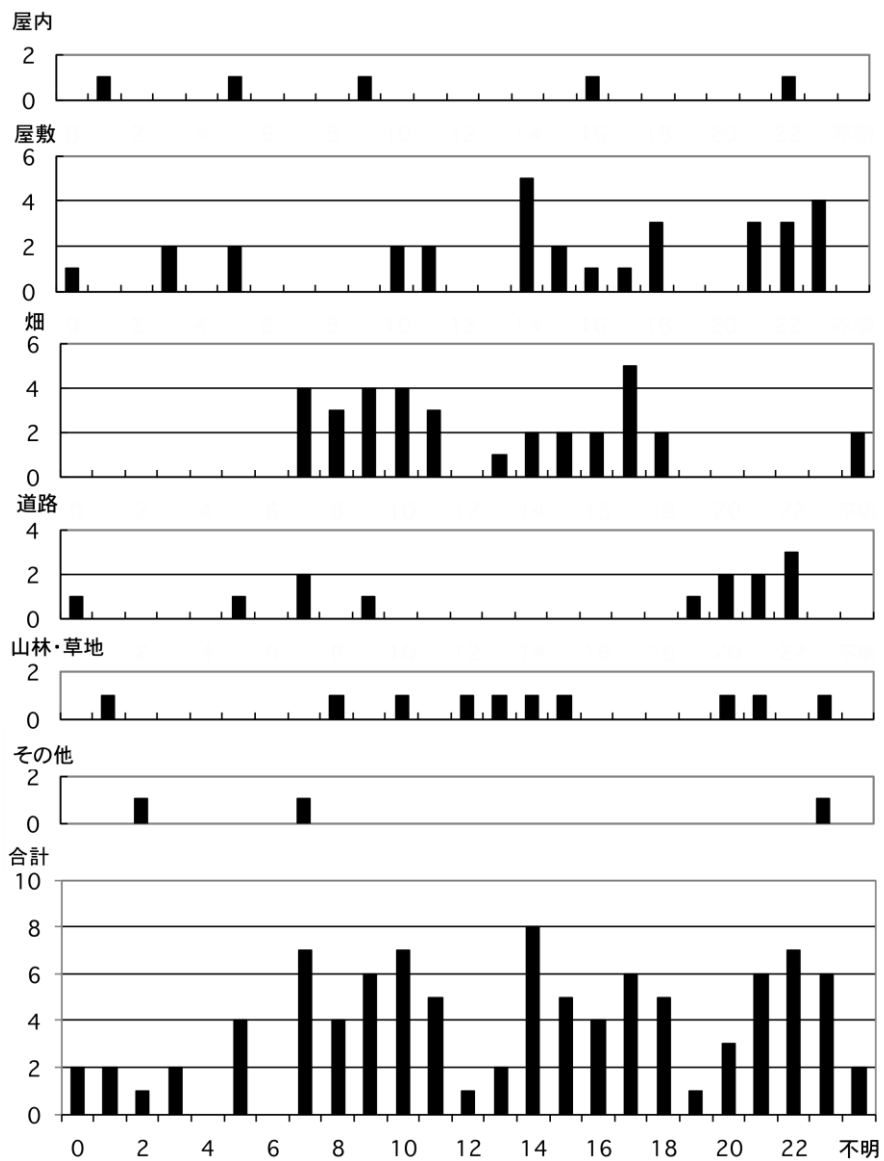


図-8 2009年 時刻別場所別ハブ類咬症件数 (4種計)

表-10 2009年 場所及び時刻別ハブ類咬症件数(四種計)

場所\時間	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	不明	計
屋内		1				1				1						1							1			5
屋敷	1		2		2						2	2			5	2	1	1	3			3	3	4		31
畑								4	3	4	4	3		1	2	2	2	5	2						2	34
道路	1				1			2		1										1	2	2	3			13
山林・草地		1							1		1		1	1	1	1					1	1		1		10
その他			1						1															1		3
計	2	2	1	2	0	4	0	7	4	6	7	5	1	2	8	5	4	6	5	1	3	6	7	6	2	96

11. 咬症部位

ハブの場合、手指 20 件(35%)、手 10 件(18%)、足 7 件 (12%)、足指・下腿各 5 件 (各 9%)、前腕 4 件 (7%)、大腿・軀幹各 2 件 (各 4%)、上腕・頭部各 1 件 (各 2%) であった (表-11、図-9)。

ヒメハブは手指・足指・足各 2 件 (各 29%)、下腿 1 件 (14%) であった。

サキシマハブは、手指 17 件 (49%)、足 9 件 (26%)、手 4 件 (11%)、前腕・足指各 2 件 (各 6%)、下腿 1 件 (3%) であった。

なお、一人の患者が複数箇所咬まれている場合があるため、咬症件数とは数字が異なる場合がある。

沖縄県での毒ヘビ咬症は、手足の先端に近い部分を咬まれることが多い。特にサキシマハブとヒメハブは体長が小さいために攻撃距離が短く、咬症部位は身体の末端に限られ、頭部や胴体などをかまれることはほとんどない。

12. 年代別、性別発生件数

4 種類の合計で見ると、ハブ類咬症の多い年代は 40 代から 70 代にかけてである (図-10、表-12)。

咬症患者の性比は、男性 74 名、女性 22 名と約 3 : 1 で男性が多い。これは咬症者の最も多い、畑での作業者が高齢の男性に多いことに起因する。

咬症患者の最小年齢は 9 歳の男子で、11 月 16 日の 18 時頃、自宅の庭を歩行中、右下腿を咬まれた。出血・腫脹があり、すぐに病院へ搬送され、はぶ抗毒素血清を 6,000 単位投与された。15 日間入院した。

最高齢は 86 歳の女性で、12 月 12 日の 15 時頃、自宅庭で草刈りをしていたところ左手を咬まれた。腫脹あり、すぐに病院に運ばれたが、血清治療するほどではなく、2~3 日の治療日数で済んだ。

13. まとめ

沖縄県における平成 21 年の毒蛇咬症件数は、ハブ 55 件、ヒメハブ 7 件、サキシマハブ 33 件、タイワンハブ 1 件の計 96 件であった。これは昨年に引き続き 100 件を割った。北部・中部地域は減少したものの、南部・八重山地域での被害が増加したため、ほとんど減少しなかったものと考えられる。

ここ数年、糸満市で起こっているサキシマハブによる咬症及び一昨年から起こっているタイワンハブによる咬症という外来種による咬症が目立ってきている。その対策を講じなければならない。

表-11 2009年 部位別ハブ類咬症件数

部位\種		ハブ	ヒメ	サキマ	タイワ	計
		ハブ	ハブ	ハブ	ハブ	
手	指	20	2	17		39
	手	10		4		14
	前腕	4		2		6
	上腕	1				1
足	指	5	2	2	1	10
	足	7	2	9		18
	下腿	5	1	1		7
	大腿	2				2
軀 幹		2				2
頭 部		1				1
計		57	7	35	1	100

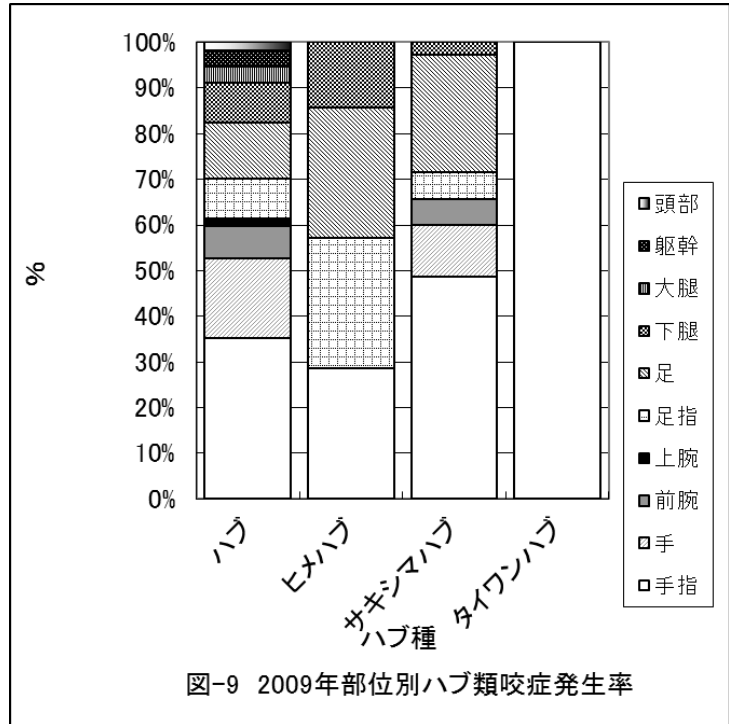


表-12 2009年 年代別ハブ類咬症件数

種類	年代	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	計
ハブ	男	1	1	2	3	8	9	10	8	1		43
	女			1		1	3	3	3	1		12
	計	1	1	3	3	9	12	13	11	2		55
ヒメハブ	男				1			1	3			5
	女			1		1						2
	計			1	1	1		1	3			7
サキマハブ	男		1	2	3	7	5	4	3			25
	女			1			2	3	1	1		8
	計		1	3	3	7	7	7	4	1		33
タイワンハブ	男			1								1
	女											
	計			1								1
4種計	男	1	2	5	7	15	14	15	14	1		74
	女			3		2	5	6	4	2		22
	計	1	2	8	7	17	19	21	18	3		96

